

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒215-0004
 住 所 神奈川県川崎市麻生区万福寺3-1-2
 氏 名 小田急商事株式会社 印
 取締役社長 雪竹 正英
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	小田急商事株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市麻生区万福寺3-1-2		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	I	卸売業, 小売業
	中分類	58	飲食料品小売業
主たる事業 の内容	スーパーマーケット(食料品及び衣料・雑貨商品の販売)		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		2,448 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	開発部 ストア開発・施設資材グループ
		所在地	川崎市麻生区万福寺3-1-2
		電話番号	044-967-1722
		FAX番号	044-967-1842
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

計 画 期 間	平成 22年度 ~ 平成 24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	<p>○当社として実施する対策内容概要は以下のとおりです。 温暖化対策推進体制の整備、主要設備等の保全管理の徹底、事務所等の空調管理の徹底、省エネ型照明の積極的導入、昇降機の合理的利用。</p> <p>詳細は、指針様式1号(第4、5面)のとおり</p>
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	なし
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	<p>○レジ袋無料配布の中止</p> <p>詳細は、指針様式第1号(第6面)のとおり</p>
備 考	<p>当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。</p> <p>http://www.odakyu-ox.net/eco/index.html</p>

備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。

3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。

4 ※印の欄は記入しないでください。

5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

1. 事業者全体の基本方針

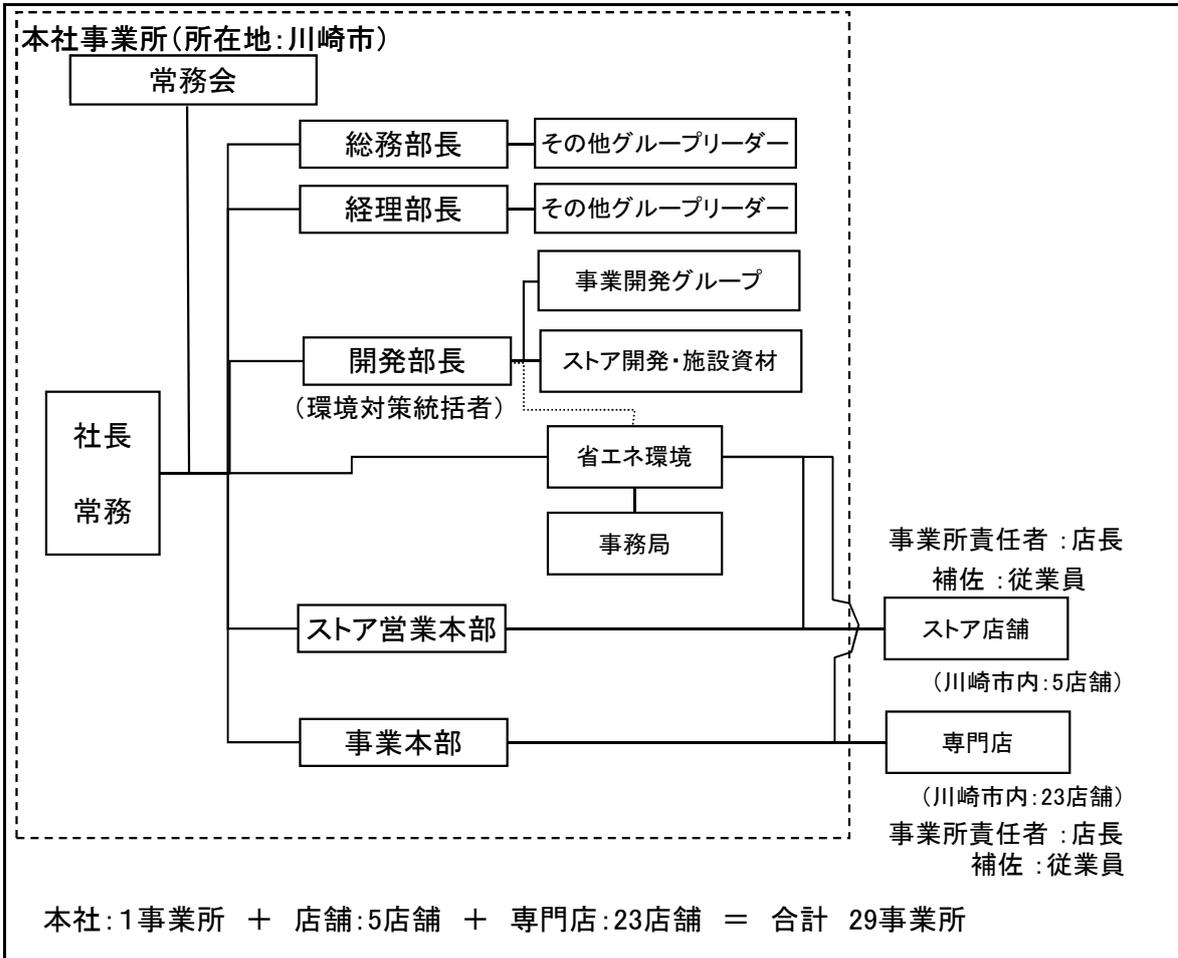
下記の事項により地球温暖化対策および省エネ対策を効率よく取組んで行く

- 1) 地球温暖化対策に関する対応を全社的に行い、かつ継続的に推進する。
- 2) 目標を具体的に定め温室効果ガスの排出量削減を図る。
- 3) 省エネ対策も合わせて取組むと共に各事業所においては事業者内容及び地球環境を考慮しそれぞれの方針と目標を決めて活動している。

2. 市内事業所の基本方針

- 1) 基本方針計画期間に上記「1. 事業者全体の基本方針」に沿って施策を実施する。
- 2) 目標対策のうち、再生可能エネルギー源の導入と省エネ効果の高い機器採用に取組む。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成21年度	目標年度	平成24年度
基準排出量	(実) 4,049 (調) 3,225 t-CO ₂	目標排出量	(実) 3,928 t-CO ₂
削減率	(実) 3.0 %	削減量	(実) 121 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量			
基準年度の値			
削減率			
延床面積、生産数量 以外の原単位を使用 した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

○当社では、販売のみならず、お客様が購入・消費・廃棄されるまでの経緯を見据えた環境対応に努めるという「基本理念」を掲げております。数値的目標としましては、エネルギー起源二酸化炭素の排出量ベースで「対前年度比1%以上の低減」を設定し、効率的なエネルギーの使用、省エネ機器の導入を継続的実施し、PDCAサイクルにより削減目標の管理、削減目標の達成に取り組む事としております。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

○2010年4月より、「環境に配慮した事業活動に努めるとともに、人に、地球に優しい商品、サービスを通じて、ゆたかな暮らしの実現に貢献します。」を小田急グループの環境ビジョンを掲げており、今後も小田急グループの重要な経営課題の一つとして積極的に取り組んでいきます。
○当社の具体的な取組みとして「1. レジ袋の有料化による売上を川崎市緑化基金への寄付」「2. ペットボトルキャップの回収による、焼却処分によるCO₂削減」「3. 小田急フードエコロジーセンターによる、循環型社会実現への取組み」を、環境対策の柱として掲げております。
上記2点の数値的目標に関しては、計画年度内に削減目標を設定致したい。

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備 事業所の各部門に、温暖化対策責任者と担当者を任命し、毎月定例会議を開催し、各部門の取組みを報告するとともに、その結果を各部門に周知徹底し改善に努める。 ○主要設備等の保全管理 主要設備の管理標準の定期的見直しや改善及び、設備保全計画（保守・点検に関する計画書、中長期保全計画など）に則った、管理の徹底 ○事務所等の空気調和の継続管理 事務所および店舗においては、定期的なフィルターの清掃等の保守・点検を徹底し設備更新の際には、順次、高効率機器を導入する。 ○省エネルギー型照明設備の導入 事務所等の照明設備について、LED等の省エネルギー型照明を導入する。また、店舗においては省エネルギー設備導入のあり方について検討を進め、環境配慮型を目指した店舗を目指す。 ○昇降機の合理的使用 昇降機の定期的保守・点検の徹底 利用状況に応じた稼働台数制御・照明の消灯の実施 <p>上記に関しまして、具体的取り組み内容の検討・実施・見直しを随時行い、PDCAサイクルによる管理・実施の徹底を行います。</p>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

計画年度内にて、太陽光発電設備を導入し各事業所の電気設備の補助電源として活用できるよう検討していきます。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

当社は、基準年度以前より積極的に省エネルギー関連の設備投資を積極的に導入している。直近では、スーパーに空調調和機器のインバーターを4機導入し、CO2削減に貢献している。また、スーパー等の店舗では、包装容器やペットボトルの資源回収等の3R活動に積極的に取り組んでいる。その他、クールビズ・ウォームビズの実施、政府推奨の冷暖房温度（冷房：28℃、暖房：20℃）の設定、昼休み時の消灯によるエネルギー削減の実施している。

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

○レジ袋無料配布の中止

レジ袋の無料配布を取り止めた結果、Odakyu 0X 栗平店におけるレジ袋の辞退率は実施前の約13%から約77%まで向上しています。(2010年3月実績)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	4,049	t-CO ₂
(調)	3,225	

イ 第 3 号該当者等

		t-CO ₂
--	--	-------------------

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k_l 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 以上 1,500k_l 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
Odakyu-0X 新百合ヶ丘店	川崎市麻生区上麻生1-4-1	5611	百貨店・総合スーパー	(実) 1,040 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k _l 未満	0
300~400k _l 未満	2
200~300k _l 未満	1
100~200k _l 未満	2
100k _l 未満	23

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--